

---

平成24－28年度  
豊中市立図書館評価システム  
自己点検報告書（案）

---

平成 年（ 年） 月

豊 中 市 立 図 書 館

## 1. この報告書について

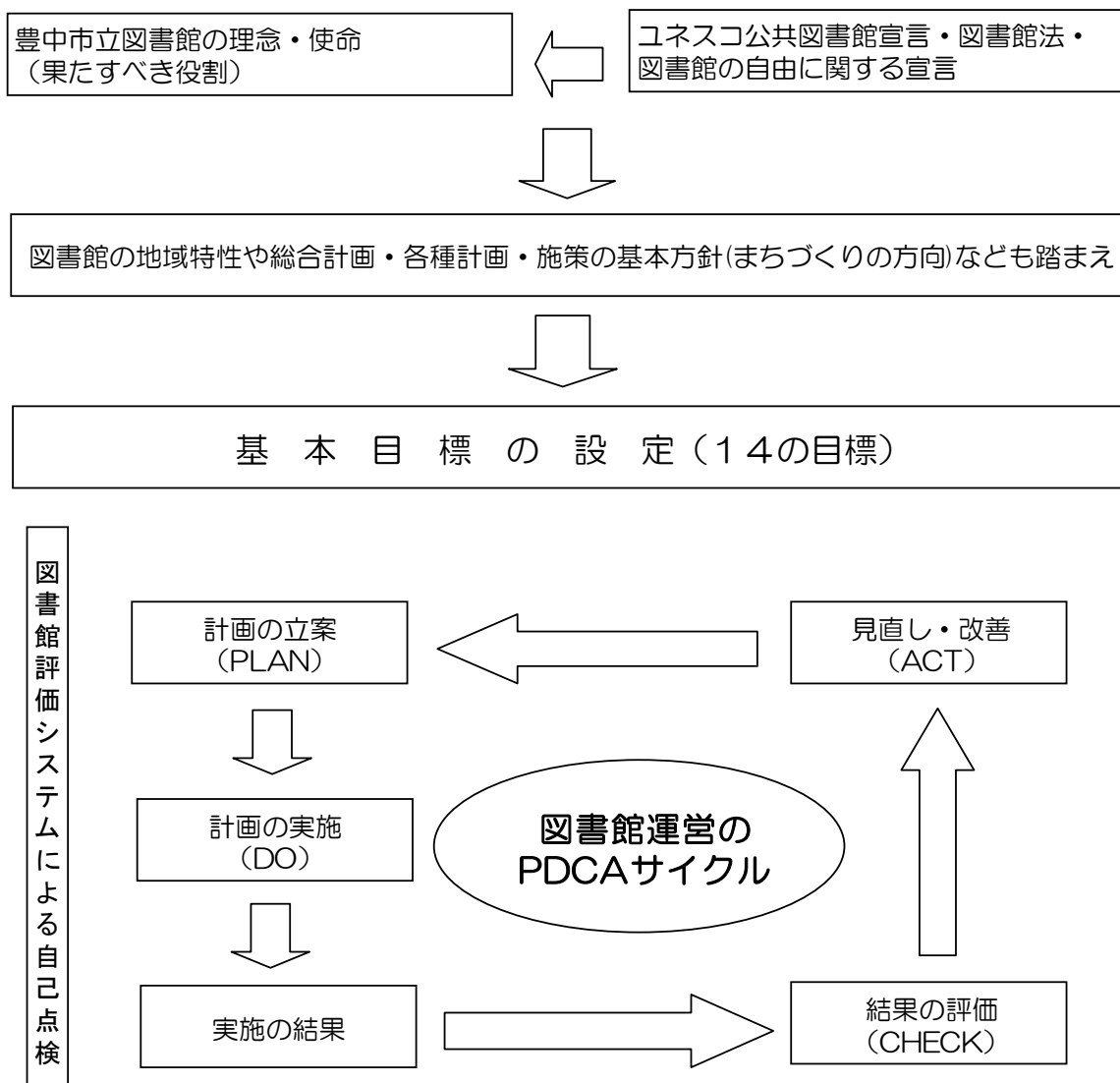
この報告書は、「豊中市立図書館評価システム評価項目表」により、平成24～28年度の図書館運営を振り返り、自己点検の分析及び評価結果をまとめたものである。豊中市立図書館協議会より提言をいただいた「図書館評価のあり方について」に基づき、効果的・効率的運営と、より一層の図書館サービスの向上をめざして、自己点検と外部評価を実施している。

この自己点検及び評価結果に基づき、業務の改善及び効率化並びに市民サービスの向上に、取り組んでいくものとする。

## 2. 図書館評価システムの体系

本システムの実施にあたっては、14の基本目標を設定し、中項目・小項目ごとに自己点検を行い、進捗管理と内容の見直し等を行っていく。

具体的には、PDCAサイクル（計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)）を軸に、小項目を基本評価項目と位置づけ、評価分析を行い、図書館活動全体の自己点検を実施するとともに、図書館評価の的確なプロジェクト管理を行い、効率的・効果的な図書館運営の実現をめざすものである。



### 3. 自己点検結果

#### 自己評価するにあたって

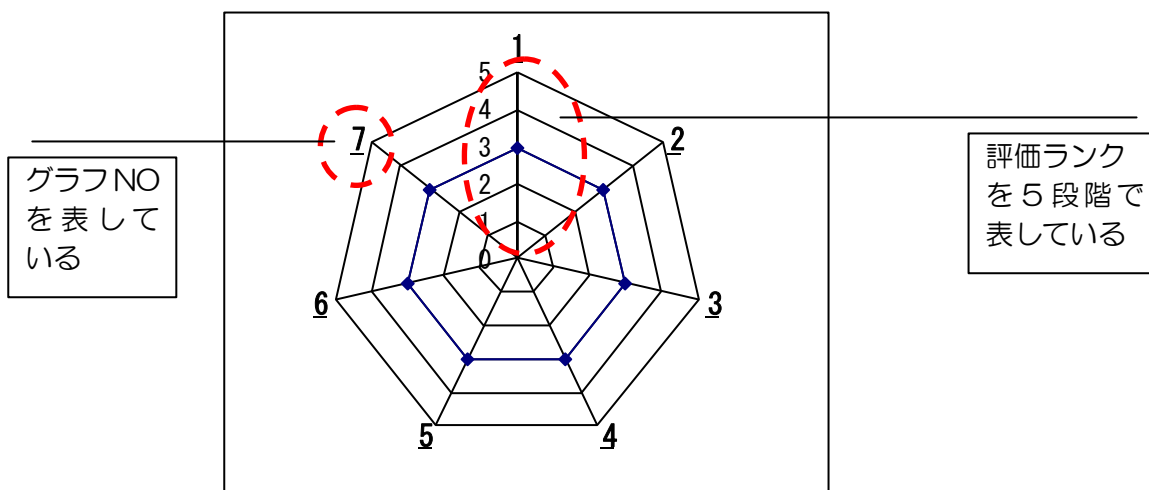
評価を実施するにあたっては、次の3点を参考指標とし、下記表の評価基準に基づき、各中項目及び小項目に対して、相対評価を実施した。

○相対評価の参考指標

- (1) 目標値に対する達成度
- (2) 全国平均値（全国人口30万以上の68市区（ただし、政令指定都市は除く。）との比較  
※全国平均値（「日本の図書館 統計と名簿2016」 発行（社）日本図書館協会を参照）  
※なお、参考ではあるが、本市図書館の全国的な位置づけは、市民一人当りの蔵書冊数としては9位、市民一人当りの貸出冊数としては8位となっている。
- (3) 平成24年度から平成28年度の経年変化の平均値との比較

評価 ランク	評価基準
5	業務の目標指標を1割以上、超えた。
4	業務の目標指標以上であった。
3	業務の目標指標の76%（（貸出冊数の全国平均）／（貸出冊数の豊中市））以上であった。
2	全業務の目標指標の75%以下であった。
1	取り組んでいない。

自己評価の結果は、中項目を評価の達成基準とし、次頁以降で「経営・運営・管理状況に関する評価」と「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」に分けて、レーダーチャート図により、各中項目の達成状況とパワーバランスを分析している。



## I 経営・運営・管理状況に関する評価

## 中項目

	項目名	評価ランク
1	図書館として適切な経営が行われているか	3
2	市民にとって質の高いサービスが提供されているか	3
3	市民参画による運営が図られているか	4
4	図書館の情報発信・PRは十分になされているか	3
5	その他運営の健全化への対応は図られているか	4

## &lt;振り返りと今後に向けて&gt;

市の「事務事業の見直し（業務の効率化とコスト削減）」、「施設再編計画」、そして社会変動のなかで将来を見据えた図書館運営が常に求められている。この5年間は、コンピュータシステムの更新を契機に貸出確認装置（BDS：ブックディテクションシステム）を導入、雇用創出事業により就労支援の取組みのなかで蔵書にICタグを貼付、順次セルフ貸出機などの機器を設置した。平成26（2014）年度、セルフ貸出機（岡町・野畑・千里図書館）セルフ返却機（野畑・千里図書館）予約e棚（千里図書館）を設置し、翌年は5館（庄内・東豊中・服部・高川・蛭池図書館）にセルフ貸出機を設置した。このことにより資料の所蔵状況に関する信頼性が高まるとともに、カウンターでの待ち時間短縮、プライバシー保護の効果、カウンター業務効率化や資料点検期間の短縮をはかり、千里図書館の開館日の拡大と利用者への対応（フロアワーク）の充実につなげた。4地域館で祝日開館を継続し、4分館で土日の祝日開館を実施している。広域利用については、豊能地区三市二町および吹田市（隣接する一部の図書館）から、北摂地区七市三町全域への拡大を目指して取り組んだ。資料費は少し増加した。

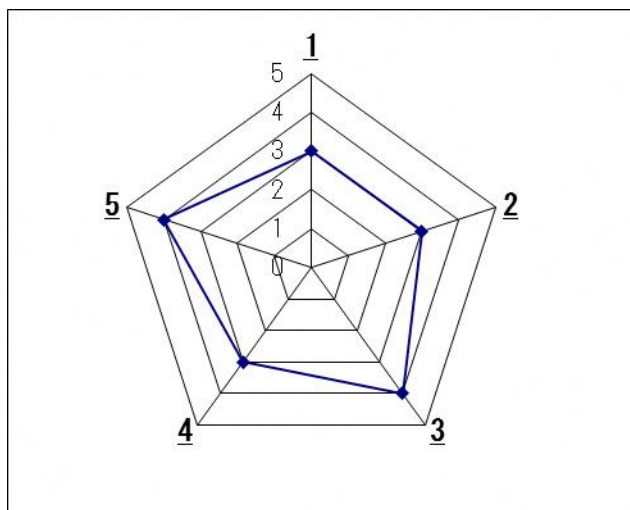
岡町図書館に市立図書館の管理事務を集中するとともに、読書振興課が岡町図書館内に移転するなど、効果的効率的な運営を目指して変化があった。

図書館協議会では「指定管理者制度のあり方（部分委託も含めて）について」（答申）、「豊中市立図書館の今後の戦略的な施設配置について」（答申）、「（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能」（提言）、図書館サポーター制度導入について討議いただき、運営に反映している。

職員の人材育成の観点では、地域の課題への理解を深め、業務のレベルアップにつながるような研修の実施と参加調整を意識している。「豊中市立図書館の中長期計画（通称：グランドデザイン）」に掲げている通り、ひきつづき計画的な人材育成に取り組んでいく。多様な雇用形態を踏まえ、人材育成カルテを作成すること等により職員一人ひとりのキャリア形成を目指していく。

豊中市の取り組みが他自治体から認められ、「とよなかブックプラネット」や行政支援サービス、市民協働事業としての「北摂アーカイブス」「しょうないREK」への視察も多かった。

前回外部評価で受けた指摘、図書館の実施する種々のサービスについて市民に十分に伝わっていない点で情報発信の工夫など改善が求められた点については、市民の課題解決に役立つ資料情報提供を実施するにあたり、市の他部局をはじめとして地域の様々な機関や人々とつながるよう、市民へのPR、図書館事業の可視化を意識して取り組んできた。引き続き、図書館事業の認知度、重要度、満足度を高めるよう取り組んでいく。



グラフ NO	中項目
(1) 経営・運営・管理状況に関する評価	
1	図書館として適切な経営が行われているか
2	市民にとって質の高いサービスが提供されているか
3	市民参画による運営が図られているか
4	図書館の情報発信・PRは十分にされているか
5	その他の運営の健全化への対応ははかられているか

## II 図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価

### 中項目

	項目名	評価ランク
1	市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できるか	3
2	他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか	3
3	市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに responding か	3
4	ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか	2
5	子どもの読書活動を推進しているか	3
6	学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか	3
7	高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか	3
8	地域の情報センターとして積極的に活動しているか	4
9	市民との協働事業を推進しているか	2
10	市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか	2

### <振り返りと今後に向けて>

この5年間は、暮らしの課題解決に役立つ資料情報提供を意識して取り組みをすすめた。平成26(2014)年度「公立図書館における課題解決支援サービスに関する実態調査」(全国公共図書館協議会)で、積極的に課題解決支援サービスを実施している図書館として、全国7地区のうち近畿地区からは豊中市が選ばれた。他部局・機関と連携して事業を行うことで、事業の効果が一層あがることを実感している。

庁内の各部局とのつながりが深まり、「庁内応援サイト」の運営や職員研修への資料提供に取り組むなかで、庁内からのレファレンス利用も増えている。レファレンス事例については、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録を積極的にすすめており、登録データが多くアクセスも多く集めていることから5年連続礼状授与が続いている。

他の自治体の図書館との協力では、豊能地区三市二町および吹田市との広域利用を継続実施し、北摂地区七市三町の検討につなげた。従来より実施の大阪府内をはじめとする図書館間で本を借り合う相互貸借の事業とあわせて取り組んでいる。

個人への貸出サービスでは、インターネットで必要な資料を予約して受け取る利用形態が定着している。セルフ機の導入を機に、職員は利用者サポート（フロアワーク）に力を入れるよう取り組んでいる。

乳幼児から児童へのサービスについては、子どもを取り巻く様々な人々によってすすめられてきた「豊中市子ども読書推進計画」二期10年間により、環境整備が一定整い、国や府の子ども読書活動推進計画の目安以上に豊中の取り組みは充実してきた。図書館は、子どもの読書環境について全市庁的に継続して見守っていくために、「子ども読書活動連絡会」事務局として今後も取り組んでいく。また4か月児の赤ちゃんと保護者に絵本を手渡すブックスタート事業を平成23(2011)年度より実施、市民・関係部局と連携し、新たなボランティアスタッフを迎えて内容の充実に努めている。

学校図書館への支援と連携では、「とよなかブックプラネット事業」により学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境整備が進み、「めざせ！図書館の達人」や「子ども読書活動フォーラム」の参加者が増加している。引き続き学校図書館の活用推進に向けて協力していく。

YA世代では、子ども読書活動推進に関わって、関係者や学校図書館の取り組みの成果により、中高生については千里図書館などでの取り組みはあるものの、18歳から20代の進学・就職等で生活が激変する世代に向けた図書館からの発信は今後の課題のひとつと考える。

高齢者人口増加に伴い、個人で気軽に利用できる施設として図書館が認識されていることを実感している。高齢者施設の増加で需要の高まりが想定されるなか、団体貸出の利用やリサイクル本の譲渡以外のサービス（おはなし会等）を含む展開も今後の課題のひとつと考える。認知症への理解を深めるために、職員研修で認知症サポーターの研修に取り組み、カウンターでの高齢者への対応に生かすことも必要と考えている。

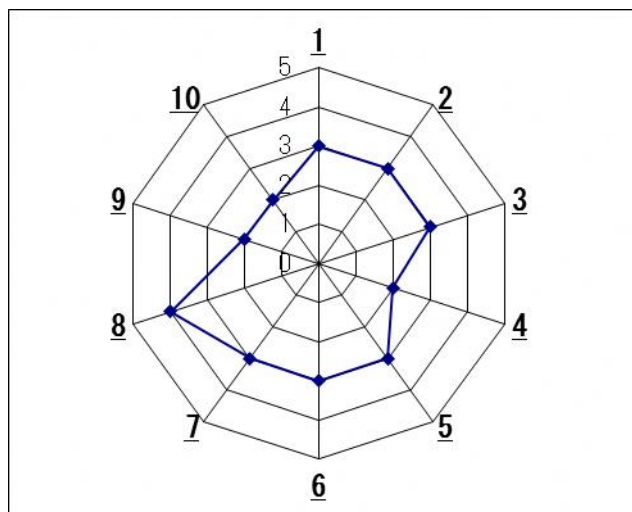
障害者サービスについては、サピエ図書館への施設登録を機に、豊中市所蔵のデジタイズ図書や点字図書の情報周知につながり、利用の巾が広がった。障害者差別解消法の施行に前後して、図書館Webサイトに絵で見てわかる利用案内を掲載、マルチメディアデジタイズ図書の貸出開始、「すべての人へ本の喜びを」展開催などに取り組んだ。より広く多様なメディアを知ってもらうために「りんごの棚」を作成、多様な場面での活用を図っている。

「北摂アーカイブス」は“地域の記憶を地域の記録へ”を合言葉に、写真展、講演会、Webサイトの更新を活動の中心として地域情報の価値を再発見する取組みを市民と協働で行い、出版物への編集協力も行った。

「しょうないREK」や地域教育協議会のように、コミュニティの一員としての役割を各館が意識して取り組んだ5年間でもあった。しょうないREKについては平成27年(2015年)に活動10年を迎え、庄内図書館が事務局となり、リサイクル本の販売益によって地域の課題解決の一助となる多様な事業に市民協働事業として取り組んできた。この事業の成果も含めて、豊中市の多様な文化芸術の取り組みが認められ、平成27年度(2015年)に文化芸術創造都市部門で豊中市が被表彰都市となった。他に市民協働の事業として平成28年(2016年)3月より図書館サポーターの活動も開始した。

平成28(2016)年度は市政80周年で名誉市民・山田洋次ライブラリーを岡町図書館に開設し、千里図書館にて国立国会図書館のデジタル化資料の閲覧開始など、多様な資料の提供に取り組んだ。

今後も、社会情勢の変化や新しい情報技術の展開に目を配りながら、「地域の知の拠点」として今後の社会や人づくりに寄与していけるよう、サービスの維持向上に取り組んでいく。



グラフNO	中項目
(2)	図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価
1	市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できるか
2	他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか
3	市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様なニーズに responding しているか
4	ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか
5	子どもの読書活動を推進しているか
6	学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか
7	高齢者、障害者及び外国人の読書環境づくりをすすめているか
8	地域情報センターとして積極的に活動しているか
9	市民との協働事業を推進しているか
10	市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか

## 4. 今後の方向性

### 豊中市立図書館評価システムのマネジメント

#### (1) 今後の評価基準

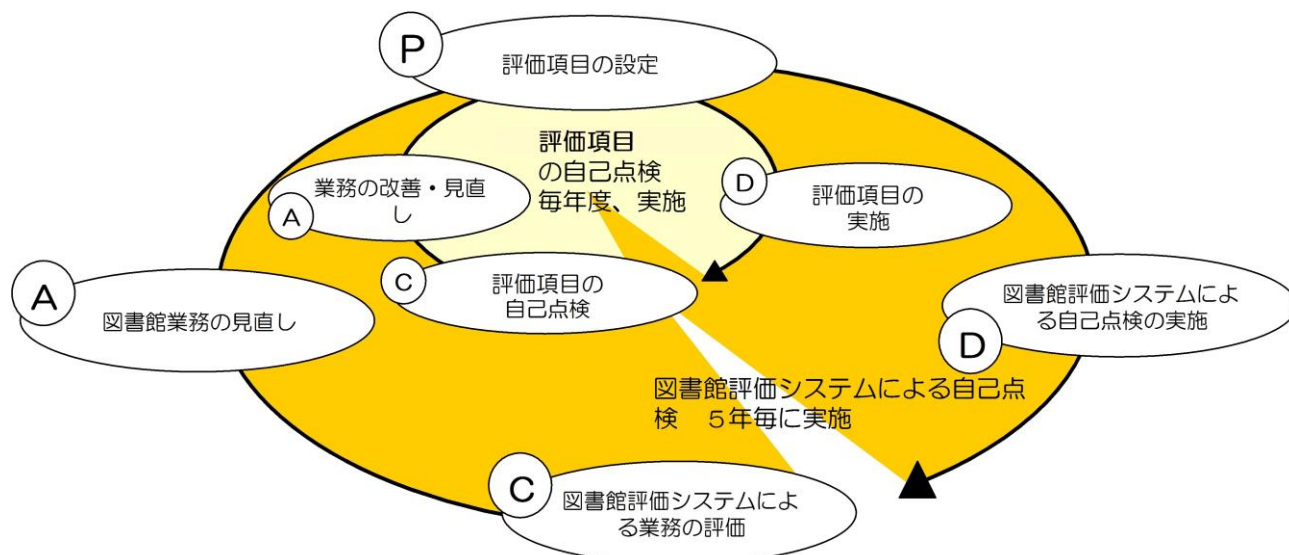
平成24年度以降の中項目・小項目の評価の方法は、各項目の達成状況に応じて、次の5段階の数値で表す。評価を数値化し、可視化することにより、達成状況の的確な把握と評価、対策の検討に役立てていくものとする。

評価ランク	評価基準
5	業務の目標指標を1割以上、超えた。
4	業務の目標指標以上であった。
3	業務の目標指標の76%（（貸出冊数の全国平均）／（貸出冊数の豊中市））以上であった。
2	全業務の目標指標の75%以下であった。
1	取り組んでいない。

※中項目・小項目によっては、定量ではなく定性によって評価を実施しているものがある。それらについては、上記の評価基準に準じて、評価を行うものとする。

## (2) 本評価システムのPDCA サイクル

本評価システムに基づく自己点検は、5年に一度、実施する。また、別途、定める評価項目は、毎年度、進捗状況の自己点検を行なう。



豊中市立図書館評価システムのPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクル